まいづる市議会だより

Maizuru City Council News Letter

No.160
平成30年(2018)
11月3日

主な内容

9月定例会のあらまし …… 2
代表質問 …… 2
一般質問 …… 4
常任委員会の審査報告 …… 10
各会派討論の内容 …… 12
議案の採決結果 …… 14
議会基本条例 …… 16
特別委員会の活動報告 …… 16
12月定例会予定 …… 16
編集後記 …… 16

議会だよりはこのコードからご覧いただけます。

●「舞鶴市議会基本条例」を全員賛成で可決

～ 時代の変化に即応した議会活動の推進を市民の皆さんにお約束 ～

● 平成29年度一般会計など各会計の決算を認定

● 西市街地の浸水被害を軽減するための浸水対策事業に要する経費をはじめとする平成30年度一般会計補正予算等を可決

10月7日は「舞鶴引き揚げの日」

（条例制定後初めての平和祈念式典）

ONE POINT 舞鶴市議会では、ICTの取り組みを進めており、第20期からタブレット等を活用し、ペーパーレス会議をすることとしております。

9月定例会のあらまし

●西日本豪雨をはじめ度重なる水害を受けた浸水対策事業費などを盛り込んだ2億4989万円の一般会計補正予算を可決

●舞鶴市の歴史を次世代へ継承し平和に対する意識の高揚を図るため、10月7日を「舞鶴引き揚げの日」とする条例制定を可決

●舞鶴市議会基本条例制定を可決するとともに、舞鶴市議会委員会条例の一部を改正する条例制定を可決

平成30年舞鶴市議会9月定例会は8月28日に開会。10月3日までの37日間開催し、市長から提案された平成29年度の一般会計等の決算、条例制定、人事案件などの21議案を審議し、議員提案の条例制定等、いずれも原案のとおり認定・可決・同意しました。

平成30年 舞鶴市議会9月定例会代表質問

平成30年9月6日

順番	会派名及び氏名	質問事項
1	新政クラブ議員団 和佐谷　寛	1　本市の財政運営について
		2　平成31年度に向けた重点施策について
		3　自然災害に対する取り組みについて
2	日本共産党議員団 後野　和史	1　災害に強いまちづくりについて
		2　国の悪政から市民の暮らしと平和を守る防波堤の役割を果たす市政について
		3　地域医療について
		4　多々見市政の財政運営について
3	創政クラブ議員団 林　三弘	1　本市の財政運営について
		2　まちづくりの方向性について
		3　農業政策について
		4　教育問題について
4	公明党議員団 松田　弘幸	1　防災について
		2　環境について
		3　観光について
5	鶴翔会議員団 田村　優樹	1　旧市民病院跡地利用について
		2　舞鶴市民病院について
		3　舞鶴市の医療環境について
		4　子どもたちの社会参画について

※質問事項のうち各議員が記述の主な質問・答弁の要旨以外の事項は、ホームページをご覧ください。
※代表質問については、質問項目を一括して質問した後、一括して答弁求める方式のみとなっています。

代表質問

9月6日に本会議を開き、各会派が代表質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

明治150年関連事業の進捗と今後は

新政クラブ議員団
和佐谷　寛

質問 本市では、明治150年に関連した「海軍ゆかりのまちづくり」の取り組みとして、赤れんが周辺まちづくり事業や、赤れんが倉庫保存活用計画の策定、日本遺産ブランドを活かした観光プロモーション、アマービレ舞鶴が進める松栄館改修への支援などの進捗状況と、これらを活かした今後の取り組みを問う。

答弁 日本遺産に認定された明治期の近代化遺産を象徴する赤れんがパークを中心とした整備実施計画を策定し、日本遺産を活かした観光プロモーションについては、旧軍港四市を巡る日本遺産ウイークをスタートさせる。海軍ゆかりの交流拠点事業として松栄館を改修し、10月にオープンする。今後の取り組みについては、実施計画に基づき、民間活力導入に向けて進めていく。日本遺産を活かした観光振興については、東郷邸や海軍記念館など「日本の20世紀遺産20選」に選定された観光コースを整備する。

交流拠点の松栄館

原発の新規制基準安全との根拠は

日本共産党議員団
後野和史

質問 新規制基準は、福島原発事故の教訓を踏まえ、最新の科学的・技術的知見で検討されたものとする根拠を示すべきだがどうか。

答弁 福島事故の教訓は、半減期の長い放射性物質が大量に放出し、大規模な汚染で避難が長期化していることなどである。この教訓を踏まえ、科学者の英知により策定された新規制基準であり、不合理ではない。

質問 舞鶴市が受ける国の原子力政策による負担とは何か。使用済み核燃料を生み出す再稼働を容認しながら、中間貯蔵施設の受け入れに反対では矛盾でないのか。

答弁 万一に備えた住民避難計画の策定と実効性の確保などである。中間貯蔵施設などは、国の責任で取り組むべき課題で、国の原子力政策に負担を強いられている舞鶴市などを除くべきである。

防災優先の公共事業を

質問 市民の命と安全を守る防災対策優先の公共事業を重点化すべきだがどうか。

答弁 最優先課題と認識している。

7月豪雨で国道27号が土砂崩れ（真倉）

市街地浸水常襲地区の早期解消を

創政クラブ議員団
林　三弘

質問 東西市街地に浸水常襲地域を抱える本市において、中心市街地への居住地域の誘導や都市機能の誘導を図る舞鶴版コンパクトシティを推進するためには、浸水常襲地域の解消は不可欠である。進め方、考え方について問う。

答弁 舞鶴版コンパクトシティの実現にはまちなか居住誘導区域への定住誘導が重要であり東西の居住誘導区域を安心・安全な区域とすることが最優先と考える。このため、府と連携して河川整備、内水排除対策に加え、ソフト対策に引き続き積極的に取り組んでいく。

中心市街地における浸水常襲地域

教職員の公用車対策を

質問 教職員の私用車の公務利用は事故等によるリスクを伴う。公務のために私用車の利用を可能とする制度を採用すべきでは。

答弁 公務のために私用車の利用を可能とする制度は、教職員の事故等によるリスクを減らすための働き方改革につながる重要な課題と認識し、その解決に向けて速やかに課題を整理し導入していく。

代表質問 一般質問

9月6日に本会議を開き、各会派が代表質問を行いました。質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

災害対策を早期に進めることを望む

公明党議員団
松田弘幸

質問 浸水対策ではしゅんせつが有効だ。伊佐津川、与保呂川、祖母谷川等のしゅんせつをすべきだ。土砂災害特別警戒区域に指定された場所の安全対策の取り組みを問う。

答弁 伊佐津川は、伊佐津川水系河川整備計画に基づき改修が進んでいる。他の河川のしゅんせつは、点検の中で適切に維持管理に努めている。土砂災害警戒区域に指定された箇所の安全対策は、要配慮者施設や危険度の高い箇所を優先的に進めている。

伊佐津川の越水（吉原）

環境対策をさらに進める

質問 地球温暖化対策をさらに進めていく必要があるがどのように温室効果ガスの排出量を削減していくのか。プラスチックごみの減量に向け、どのような取り組みをするのか。

答弁 温暖化防止の啓発や再生可能エネルギー導入を積極的に進めていく。プラスチックごみ減量は、小学校への出前授業や子ども向けごみ減量啓発ワークショップなどを通じてごみの発生抑制の環境教育等に努める。

舞鶴市の医療環境を問う

鶴翔会議員団
田村優樹

質問 本市では、質の高い医療が提供されているという市長の評価と裏腹に、多くの舞鶴市民は、福知山市や綾部市に時間とお金をかけて通院している。この実態から、市民が地元完結型で診療を受けるために不足する診療科、医療環境に対する市長の認識を問う。

答弁 放射線科、麻酔科、救急医療に携わる医師が不足し、医師確保の厳しい状況が今後も続く。地域に不可欠となる総合診療医の確保で救急医療体制の確保に努める。

不足する診療科は

市民病院の現状を問う

質問 市民病院の役割が目的から逸脱している。入院患者の年間退院数は117人、その内訳では約100人の方が死亡退院という実態である。この状況が市民のイメージする市民病院像なのか、市民に広く利益をもたらす自治体病院の姿として理解を得られるのか、市民のご意見、評価を仰いではどうか。

答弁 市民病院は、今後も引き続き地域に不足する慢性期医療の確保、持続可能な病院運営を目指す。

一般質問

市民が行う文化活動への支援充実を

日本共産党議員団
伊田悦子

質問 芸術・文化は生きる力を与え心豊かな暮らしに欠かすことができない。本市の文化振興基本計画では、行政の役割を明記している。市民の自主的な文化活動を応援する市の姿勢を問う。①会館等使用料の値上げは。②使用料の減免は。③市民の文化活動の場としての旧東保育所の開放は。

答弁 ①適切な算定基準により見直した。②基準が明確でないため、統一化・透明化を図っている。③文化活動の利用場所は現在充足していると考える。

高齢者に感謝して改善を

質問 市長は提案説明で「高齢者への感謝」という言葉を用いた。そこで①高齢者外出支援事業のタクシー乗車票変更は、遠方使用者のサービス後退ではないか。②不便になった東西循環線バスルートについて改善を求める。

答弁 ①限られた財源の中、多くの方に利用していただくための制度改正。②市や京都交通に寄せられた利用者の声は、現地を確認し、必要であれば対応。

閉所された旧東保育所

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

一般質問

平成30年 舞鶴市議会9月定例会一般質問

平成30年9月7日、10日

順番	質問方式	氏　名	質問事項
1	一問一答	伊田　悦子	1　子育て世代の願いに応え子どもの医療費助成を拡充することについて
			2　市民が自主的に行っている文化活動への支援について
			3　高齢者の交通問題について
			4　子どもたちに伝えるまちづくりについて
2	一括	小谷　繁雄	1　西地区における総合的な治水対策について
			2　誰もが安心・安全な移動ができるバリアフリー化について
3	一括	福村　暉史	1　行財政改革について
			2　危機管理対応について
			3　教育について
4	一括	谷川　眞司	1　災害対策について
			2　東浄化センターについて
			3　ICOM会議について
5	一括	西村　正之	1　防災教育について
			2　高野川流域における総合的な治水対策について
6	一問一答	石束　悦子	1　家族農業に支援をすることについて
			2　温かい学校給食の実現と無償化について
			3　市民の願いに応える市営住宅について
			4　民生児童委員の実態について
7	一括	杉島　久敏	1　小児がんについて
			2　少子化に伴う学校運営について
8	一問一答	今西　克己	1　由良川水防災対策について
			2　閉校中の施設の転利活用について
9	一括	高橋　秀策	1　山陰新幹線について
			2　LNGやメタンハイドレートの備蓄基地について
			3　教育について
			4　ごみ減量の取り組みについて
			5　市職員の働き方改革について
10	一問一答	小杉　悦子	1　障害者雇用について
			2　生活保護の生活扶助費の改定について
			3　災害時の情報伝達について
			4　資産活用について
11	一問一答	眞下　隆史	1　製造業の雇用状況について
			2　市内のレスリング・柔道競技の強化について
			3　健康づくり施策について
			4　公用車の燃料細分化について
12	一問一答	肝付　隆治	1　更なる高齢化社会を見据えた地域支援について
			2　企業誘致の取り組みについて
			3　自主防災について
13	一括	鯛　　慶一	1　公共工事入札制度について
			2　舞鶴市民病院の運営について
14	一括	山本　治兵衛	1　平成30年7月豪雨の検証について
			2　西舞鶴の治水計画について
			3　学校の体育館における多機能化について

※質問事項のうち各議員が記述の主な質問・答弁の要旨以外の事項は、ホームページをご覧ください。

※一　　括…質問項目を一括して質問した後、一括して答弁を求める質問の方式
※一問一答…質問項目を一問ごとに質問し、その都度答弁を求める質問の方式

一般質問

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

高野川流域の早期浸水対策を

公明党議員団
小谷繁雄

質問 高野川の河川整備において、大手川と静渓川に雨水ポンプ場設置の基本設計だけではなく、堤防の高さや流下断面の確保のための調査が必要と考えるがどうか。また、度重なる浸水被害への軽減策について問う。

答弁 雨水ポンプ場の整備に合わせた大手川と静渓川の流下断面の確保について、土砂の堆積状況を確認し、必要であれば、しゅんせつなどを計画する。事業進捗、予算確保に努め一日も早い事業の完成に向け取り組む。

伊佐津川の早期浸水対策を

質問 伊佐津川の河川整備において、今年度までの浸水対策事業について問う。また、大和橋の架け替えと護岸工事を含めた当面の浸水被害の軽減策ついて問う。

答弁 今年度は、大和橋までの右岸180メートル区間の護岸工事を予定。大和橋については、必要な幅員や構造の見直しと整備効果の検証を踏まえた事業化を進める。本年8月に市長が被害の大きい箇所の整備を要望し積極的な事業促進に取り組む。

7月豪雨によって土砂が流入（魚屋大森）

※マイタイムラインに対する市の考えは

新政クラブ議員団
福村暉史

質問 風水害や土砂災害から地域住民の生命を守るためには、自治会や自主防災組織自らが、ハザードマップ等を参考に避難に関する目安、地区ごとのマイタイムラインを、事前に作成しておくことが有効であると言われている。災害時にはマイタイムラインを活用した、自治会などのリーダーによる「行動」が、地域住民の避難行動となり生命を守り、被災から逃れることにつながった地域について報道があった。近隣や地域の人が協力して防災活動に取り組む「共助」の精神が重要であると言われるなか、マイタイムラインの有効性と、自治会への作成の働きかけについて市の考えを問う。

答弁 災害時に大切なことは、自分や家族を災害から守る「自助」と、近隣や地域の人々が協力して災害に備える「共助」の精神である。自主防災組織や消防団、自治会の皆さんが協力して、マイタイムラインを作成される時には、積極的に支援していく。

「自助」「共助」の取り組みを

新たな避難所を求める

創政クラブ議員団
谷川眞司

質問 市は災害時には、地域住民が迅速に避難できる緊急的な避難所を確保しておく必要があるのでは。

答弁 このたびの台風21号では、小学校18校のうち、隣接地区に避難所がない14校を避難所として開設をした。「校区の小学校」についても避難所として開設する方向で検討をする。

臭気漏れ出し防止を

質問 東浄化センターからの臭気の漏れ出し防止について、どのような設備対応や対策をとっているのかを問う。

答弁 東浄化センターの汚水処理施設は、微生物や活性炭などにより臭気対策を行っている。平成29年8月から新たに稼働した舞鶴市環境衛生プラントにおいては、バキューム車が、し尿や浄化槽汚泥を投入する際には、高速シャッターが作動することにより、発生する臭気の施設外への拡散を防止している。今後とも施設外への臭気漏れの防止に努める。

三笠小学校・避難所

※マイタイムライン…災害時に「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で決めておく防災行動計画。

一般質問

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

高野川流域における総合的な治水対策は

会派に所属しない議員
西村正之

質問 西市街地では、平成16年、平成25年、平成29年、そして本年の7月豪雨と近年4回にわたり大規模な浸水被害を受けている。当該地域にお住まいの方々は、浸水被害の解消を一日千秋の思いで待ち望んでいる。そこで、高野川の河川改修等の外水対策は、京都府が行い、市街地における内水対策は舞鶴市が実施するという役割分担が定められ、治水対策を着実に進められていると伺っている。浸水被害に遭われた方々は、その対策の早期実施を望んでいることから、これら取り組みの進捗状況について問う。

答弁 京都府においては、河川改修工事の着手に向け、土質調査や詳細設計を進められている。本市では、高野川右岸に内水排除ポンプの設置を計画し、高野川左岸においては、逆流防止弁を本年度中に6箇所設置予定しており、これら事業完成に向け鋭意取り組んでいきたい。

高野川流域の河川増水

温かい中学校給食と給食費の無償化を

日本共産党議員団
石束悦子

質問 平成29年度市の中学校給食アンケートで、好きでおいしく食べている生徒は約1割で、前年より減少した。給食の方法を自校方式、親子方式の給食に変えるべきでは。

答弁 設備面、学校運営に課題が多く、実施する考えはない。

質問 給食費の無償化は貧困家庭、教職員の心理的負担解消にもなる。無償化の予算は概算で市の一般会計支出の1％。無償化に向けて検討すべきでは。

答弁 保護者負担は法で定められている。人口の多い市での無償化は難しいと考える。

民生児童委員の待遇改善を

質問 民生児童委員の仕事が増加傾向である。財政的な支援と待遇改善を問う。

答弁 担当は平均156世帯、最大461世帯。活動補助金として各委員年額11万8千円。民児協会長には2万4千円、各民児協に最大13万8700円を支給している。補助金の増額は毎年国・府に要望している。また、関係機関からの業務依頼は、職務と照らし合わせ整理している。

育ち盛りの中学生に温かい給食を

小児がんの病院間連携と問診項目の追加

公明党議員団
杉島久敏

質問 小児がんは発見が難しく増殖も速いが、化学療法や放射線療法による効果も極めて高く70～80％が治るようになってきた。質の高い医療の提供を得るため、厚労省が指定した府内の小児がん拠点病院と舞鶴市内の公的病院間の地域連携はどうなっているのか。また、小児がんの早期治療には、検査や診断が重要である。そこで、網膜芽細胞腫を早期発見するため、乳幼児健診の問診票の眼の項目に遺伝に関する項目を追加してはどうか。

答弁 治療については、専門的で高度な医療が必要であることから、指定を受けた小児がん拠点病院で治療されている現状にあり、市内医療機関と小児がん拠点病院はしっかり連携されている。病状の早期発見においては乳幼児健診の平準化を目指した調査研究が進められているところである。目の遺伝性疾病に関する問診項目も示されていることから、それらを参考にしながら検討していく。

小児がん拠点病院（京都大学医学部附属病院）

一般質問

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

由良川水防災対策を問う

新政クラブ議員団
今西克己

質問 本市管内には輪中堤が現在4つ築造され運用されている。本市管内の大川・八田・丸田輪中堤においても、志高地区輪中堤同様の内水被害が顕著に出ている。さらに他の輪中堤においても被害があるが、排水ポンプ車の購入配備をする考えがないかを問う。

答弁 今回、国において2台の排水ポンプ車が前進配備された。排水ポンプ車の購入配備は、今後内水が発生した際に、そのポンプ車の効果を確認し、課題の整理など総合的に検討する。

内水対応中のポンプ車

閉校施設の転活用を問う

質問 閉校施設の転活用について、多種の事業提案があると思うが、地元住民の皆様に理解と協力が肝要と思う。事業提案があった場合に、地元とはどのように調整するのか問う。

答弁 閉校した各学校は本市及び地域の貴重な財産であり、皆様に大切にされ愛されてきた施設である。転活用にあたっては提案事業者と市が一緒になって、地域の意見を聞きながら丁寧に進める。

ぜひ新幹線北部ルート実現を

創政クラブ議員団
高橋秀策

質問 新幹線の整備は先例を見ても沿線地域に大きな波及効果がある。この地域の発展のため、国に強く働きかけていく必要があるが、今後の方針、意気込みを問う。

答弁 府北部地域の発展、日本海側地域全体の発展に向け、5市2町や関係者等とも連携し北部ルートの実現に取り組む。

新幹線

学力向上の取り組みを

質問 ①小中一貫教育は3年目を迎えるがその成果は。②福井・秋田県への教員派遣を学力向上にどのようにつなげるのか。③五輪・パラリンピック選手の夢講演会を問う。

答弁 ①落ち着いた前向きな学習態度が生まれるなど、学力向上や中一ギャップの緩和に成果が出てきているものと認識している。②全教職員で取り組む協働性を大切にした研究体制の構築など、派遣教員が学んだ知識を大いに活用して学力向上につなげている。③自己実現や困難に立ち向かうこと、お互いを尊重し理解し合うことを学んでくれることを期待している。

夏季加算の支給で熱中症対策を

日本共産党議員団
小杉悦子

質問 この夏は酷暑が続き「クーラーがあっても電源が入っていなかった。」と熱中症での報道もあった。「電気代の請求が心配でぎりぎりまで我慢して。」と市民の声を多く聴いた。生活保護世帯では、熱中症予防のため「夏季加算」も必要と考えるがいかがか。

答弁 夏季加算の支給について、その必要性を認識していることから、国への要望について検討を進めている。

地球温暖化の影響か、気候の大きな変動

戸別受信機で防災情報を

質問 台風、豪雨、地震、原子力災害時において、避難等の行動につながる正確な情報伝達は、市民の命を守るため欠くことができない。消防庁は「防災情報が届きにくい方々には、住居内の戸別受信機が有効」とし、財政支援もある。戸別受信機の全戸への整備についての考えを問う。

答弁 戸別受信機については、財政的な負担やメンテナンスなどに課題がある。現在の情報伝達を基本とし、通信技術の発展も見据えながら、総合的に検討していく。

一般質問

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。
質問・答弁の要旨は、次のとおりです。

舞鶴市内製造業の働き手不足解消に向け

新政クラブ議員団
眞下隆史

質問 舞鶴市内製造業は積極的な設備投資が進められていると感じているが、求人に対して働き手不足の様相を見せている。そうした企業の声を行政として、どのように把握しているのか、また高卒就業者に対する呼び掛けや支援策を問う。

答弁 積極的な設備投資がされる中、人手不足の状況と認識している。そこで高校生の地元就職を促進するため、各高校へ市職員が訪問し意見交換や、府内初の取り組みである「高校生のための企業研究会」を開催し、高校生と保護者に対し、各企業がプレゼンする機会を設けている。

積極的な設備投資が進む市内製造業（日本板硝子）

市HP多言語対応の強化へ

質問 本年8月に訪問されたウズベキスタン選手団ジュニア世代は、母国語のみ話されており、母国へ帰られ舞鶴を調べる際に舞鶴市ホームページを活用されると思うが、ウズベキスタン語の対応を問う。

答弁 今年中にウズベク語への対応をし、本市の魅力をお伝えする努力と他の言語拡充も検討する。

老人会充実のための市の取り組みを問う

創政クラブ議員団
肝付隆治

質問 老人会は、地域づくりや要支援者への生活支援など地域包括ケアの担い手としてさらなる充実が求められているが、加入率は年々低下している。市の支援方針を問う。

答弁 市は会の様々な相談や健康づくりなどの出前講座等積極的に支援しており、民間企業や市民とも連携を図りながら引き続き支援していく。

質問 市老連に加入するクラブ数も年々減少しており、その要因の一つに補助金の交付がある。厚労省では、補助の対象となる事業は、老人クラブ連合会に加入して行うことを前提にしている。市は市老連に加入しないクラブに対しても同じ補助金を交付しているが、市の見解を問う。

答弁 市老連の活動を継続・発展させるためには各クラブが市老連に加入することが望ましい。その一方で、各地域のクラブが地域で活動し地域づくりに貢献する独自の活動にも支援が必要であり、補助金制度の在り方も含めよく検討する。

現在の全国老人クラブ

市民病院の運営について問う

新政クラブ議員団
鯛慶一

質問 医療療養型の新市民病院が完成し、舞鶴市に必要とされている新たな機能の病院が完成した。過去の運営で市の補助金がピーク時には10億円を超え、その後も7億円近い補助金が繰り入れられていた過去がある。当時、新市民病院では劇的な経営改善が行われるとのことであったが、いまだ赤字運営と言われることも多い。平成29年度の決算について市はどのように認識しているのか。当時と比較して現状をどう認識しているのかを問う。

答弁 地域に不足する慢性期医療の確保という地域ニーズにしっかりと対応してきた結果、市からの補助金の繰り入れ状況は、平成29年度が約1億5900万円で推移している。この市補助金には、地方交付税として、平成29年度は約1億3000万円が措置されており、それを加味すると、収益的収支差額に対する実質的な補填額は約2900万円となっており、病院運営は改善状況にあると認識している。

よりよい医療環境を

一般質問 常任委員会の審査報告

9月7日、10日に本会議を開き、14人の議員が一般質問を行いました。質問・答弁の要旨は、次のとおりです。
本会議において付託された5常任委員会において審査しました。

市民の安心・安全は早期に整えよ

創政クラブ議員団
山本 治兵衛

質問 平成30年の7月豪雨は、市に大きな被害をもたらした。昨年の台風に続いての被災であり、高野川水系河川整備計画は待ったなしの状況となった。計画の早期完成が住民からも強く要望されたところである。このような状況のもと、改めて市の見解を問う。

答弁 昨年の台風に引き続き、本年の豪雨と度重なる浸水被害が発生したことからできる限り治水対策を早期に完成させる必要があり、市長を先頭に全力で取り組む。

質問 各小中学校の体育館は地域コミュニティの拠点であり、災害発生時は避難所となりえる施設である。全国的にも小中学校体育館のエアコン設置が始まりつつあるのが現状である。市も設置の検討を始めてはどうか。

答弁 真夏の暑い時期に大規模な災害が発生した場合に避難所となる施設の環境整備をどう確保するのか、全ての避難所において検討すべき課題である。

早期完成が求められる
舞鶴市の治水計画

予算決算委員会の主な審査内容

30年度一般会計補正予算

※財政調整積立金

Q 補正後の財政調整積立金の残高は？

A 平成30年度末で、18億7855万5494円となる見込みである。

健康づくり推進事業

Q 歩王（ウォーキング）事業の内容は？

A 産学公連携により「継続して歩く人を増やす仕組み」の構築を目指すもので、モデル地域の自治会・企業やウォーキング事業参加者等の住民が参画するワークショップの中で検討する。

小型家電等収集管理システム導入可能性調査事業

Q 事業内容は？

A 小型家電及びペットボトル、プラスチック容器包装類の資源化率の向上、排出機会の確保等を図るため、12カ所程度に設置する回収ボックスに取り付けたセンサーにより、リアルタイムで保管量を把握し、効率的に収集する実証実験を行い、今後の導入の可能性を調査する。

基盤整備事業

Q ほ場整備率は？

A 朝来中地区が完了すれば、61・3％となる。

浸水対策事業

Q 高野川の逆流防止弁の効果は？

A 逆流防止弁は、川の水位により自動的に弁が開閉し、川からの逆流を防止するもので、7月豪雨において高野川と市街地側に80㌢程度の水位の差があった箇所もあり、逆流防止効果が確認された。

29年度決算

一般会計決算

広報活動経費

Q 広報まいづるの発行に経費をかけ過ぎではないか？

A 広報まいづるの経費には、作成費のほか、新聞折込料、希望する方への郵送料、編集のためのパソコンのリース料なども含まれており、作成費に限れば、1ページ当たりの単価は近隣市と比べて高額ではなく、少ない経費で効果的な広報とすることを目指している。

旧市民病院跡地整備事業費

Q 旧市民病院跡地整備に係る家屋補償の内容は？

A 工事前後に家屋調査を行った結果、1軒の家屋の壁にひび割れが確認されたため、その補償を行った。

成年後見センター運営事業費

Q 相談の実績は？

A 実相談件数58件のうち、市長申し立てなど市へ引き継がれたものが2件、専門職につないだものが3件、制度に関する助言・説明が38件である。

障害者しごとサポートセンター運営事業費

Q 就労支援の実績は？

A 直接就労に結びついた実績はないが、企業訪問により実習に結びついた実績は1件ある。企業訪問等の実績は57件で、うち福祉施設を除く企業・事業所は32件である。

引揚記念館整備事業費

Q 財源に寄附金があるが内容は？

A 企業版ふるさと納税が1千万円で、個人からのふるさと納税が637万円であった。

※財政調整積立金…災害、不慮の出費その他歳出に充てるための積立金。

常任委員会の審査報告

本会議において付託された議案は、予算決算委員会15件、民生環境委員会1件、建設委員会2件、経済消防委員会2件であり、それぞれの委員会で審査しました。

市の取り組みとして返礼品の見直しも行っており、今後も広げていきたい。

地元就職・転職支援事業

Q 就職フェアーの来場者の動向は？

A 全国的に就労希望者が減っている中で、舞鶴市でも来場者は減っているが、各企業のインターンシップは好評であり、学生の参加数は減っていない。高校生の地元就職につなげるためにも企業研究会等の開催時期等も検討して進めたい。

茶業振興対策事業費

Q 舞鶴茶生産組合等への支援は？

A 全国茶品評会への出品の支援をし、30年度ではかぶせ茶の部で第2位であった。てん茶として優れ、玉露にも加工できる品種の「さみどり」を生産者が選ばれ、茶木の新植・改植の支援を行った。

京都舞鶴港クルーズ推進業費

Q クルーズ船の誘致活動の内容は？

A 国内外を問わず、クルーズ見本市への参加など86回の誘致活動を実施した。2020年のクイーン・エリザベスの寄港はこれらの活動によるものである。

交通安全推進進業費

Q 「ゾーン30」の工事内容とその効果は？

A 区画線や着色表示等の路面工事を実施しているもの。事故の被害の軽減効果が見込め29年度までに、朝来・引土・余内地区の3カ所で工事を実施した。

道路維持管理経費

Q 土のうステーション管理業務に係る経費はなにか？

A 市内に4カ所ある土のうステーションにおける、土のう袋・砂・労務費である。

特別会計決算

水道事業会計

Q 12年連続の黒字決算だが、今後の課題は？

A 水需要の減少による収入減や、耐用年数を迎える多くの施設・管路の更新や地震・豪雨等の自然災害に対応する課題があり、厳しい経営環境が続くと認識している。将来にわたり、安全安心な水を市民の皆さまに供給し続けるために将来を見込んだ投資、財政計画により運営していく。

病院事業会計

Q 入院収益が増えている要因は？

A 医療療養型病院に移行し、地域に不足する慢性期医療の確保という役割を果たすべく、計画的な入退院管理に努めた結果、稼働率が上がるとともに、入院基本料単価の上昇につながったことが収益増の要因と考える。

国保事業会計

Q 保険料滞納による差し押さえの件数・金額は？

A 61件、1292万9401円であった。

介護保険事業会計

Q 保険料滞納による差し押さえの件数・金額は？

A 22件、107万3537円であった。

民生環境委員会の主な審査内容

東浄化センター汚泥処理施設（し尿）解体工事請負契約について

東浄化センター内の旧し尿処理施設の解体・除却に係る工事であり、一般競争入札の結果、「鶴美・ホクタン・サクライ特定建設工事共同企業体」と1億6905万9960円で工事請負契約を締結するもの。

建設委員会の主な審査内容

舞鶴市地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正

都市計画における旧青井小学校地区、旧神崎小学校地区、旧由良川中学校地区の地区計画が決定したことに伴い、これらの地区に係る地区整備計画区域・建築物の制限に係る規定を追加する等、所用の改正を行うもの。

Q 学校を他の施設（レストラン・ホテル等）に再利用することは可能か？

A 本条例は閉校した学校の利活用を目的としており、小規模の改築・増築を認めるもの。構造に影響がない範囲で、利用してもらえる。

経済消防委員会の主な審査内容

舞鶴引き揚げの日条例制定について

舞鶴引揚記念館を中心に引き揚げ及びシベリア抑留の史実と平和の尊さを国内外に発信してきた。戦後73年が経ち、戦争を知らない世代が増加し、引揚げの史実の風化が顕著になってきている中で、世界の恒久平和を念願し、10月7日を舞鶴引き揚げの日とする条例を制定するもの。

Q 市の取り組みの内容は？

A 市民や次世代を担う子どもたちに引き揚げの日の制定意義の周知が重要と考える。ふるさと学習の継続的な取り組みや平和祈念式典への全中学校の代表の参加など、次世代への継承を中心に取り組みたい。制定を要望されていた団体へも働きかけ、市民と協働した取り組みを進めたい。

10月3日の最終本会議において、提案された議案に対して各会派が討論をしました。

討　論

市の存在意義は観光優先施策にあらず

日本共産党議員団
伊田悦子

提案された議案のうち6議案に反対する。

市民に痛みを押し付ける国政に物を言い、住民や地域の福祉向上を目指し、市民の生活を支えるところに自治体の存在意義がある。観光港湾施策優先ではなく、北部で最低の子どもの医療費助成の拡充等で、市民の暮らしを優先することが市の役割である。今まで45億円、今後10年間で30億円の赤れんがパーク整備事業、建設費や地元負担の試算・事業効果等が市民に知らされない整備新幹線誘致促進費、日星高校特進コースの一部のできる子どもへの支援等に問題があり、一般会計決算は認定できない。

水道・下水道会計は料金が値上げされ、市民に負担増を押し付けており、国保会計は黒字にも関わらず、国保料引き下げの願いに応えないことから、これら決算も認定できない。

度重なる浸水被害に苦しむ市民に寄り添い、防災行政無線の全戸配布等でまずは災害に強いまちづくりを優先すべきだ。

まちづくりの主人公は市民

早期の浸水防止対策を

公明党議員団
杉島久敏

今9月定例会に上程された全議案に賛成する。

平成29年度舞鶴市一般会計決算の認定については、平成29年度は、舞鶴版・地方創生の実現に向けて重点事項に沿う形で積極的に取り組まれたものと評価する。

台風18号及び21号と相次ぐ災害に対しても事前の防災対応をはじめ、災害現場の確認、情報収集など的確に対応し、早期復旧に努めるとともに、国・府の補助制度を活用し、財源確保に努めていただいた。また、実質収支は、8369万円の黒字決算であったことから一定、財政の健全性を維持されたものと評価する。

平成30年度舞鶴市一般会計補正予算の主な事業において、浸水対策事業では、4基の逆流防止弁の追加設置により、西市街地の高野川からの逆流による深刻な浸水被害と、汚泥沈着の軽減を図ることが期待される。今後、本格的な浸水対策事業が早期に進められるよう期待する。

高野川に設置された逆流防止弁

議会を傍聴してみませんか

議会は誰でも傍聴することができます。

お問い合わせは
市議会事務局へ　☎66-1060

ホームページからライブ中継と録画の映像もごらんいただけます。

舞鶴市議会　検索

10月3日の最終本会議において、提案された議案に対して各会派が討論をしました。

討　論

市民に公表するべき市民病院の運営実態

鶴翔会議員団
亀井敏郎

平成29年度舞鶴市病院事業会計決算には反対する。新市民病院の運営を、「地域に不足する慢性期医療の確保」として特化するには無理がある。そもそも舞鶴市民病院の設置目的は条例で「市民の健康保持に必要な医療を提供する」とあり、市民が求める医療を公平公正に提供することではないか。これまでの実績から明白である看取りを主とした病院運営は、本来の役割や目的が担保されず、自治体病院としての機能が大きく乖離していると言わざるを得ない。さらには急速に進展する超高齢化社会の中では、予防医療や訪問医療、看護等の生活支援に大きな期待が寄せられながら、現在の市民病院の運営実態は退院の約7割が死亡退院で、在宅復帰者はごく一部である。収支の状況も、今後2億円近い赤字が恒久的に続くと懸念される。今一度、市民病院の必要性、現状を市民に説明し意見を求め、市民が納得のいく地域医療、病院運営を目指すべきである。

舞鶴市民病院の役割と実態はいかに

まちづくりの推進 被災からの復旧を評価

新政クラブ議員団
岸田圭一郎

今9月定例会に上程された全議案に賛成する。

平成29年度一般会計決算は、市税収入などが減少したものの、地方交付税などを活用し、持続可能で安定的な財政運営を堅持された中で、次の3つのまちづくりに最重要施策を設定し、創意工夫した取り組みや台風災害からの復興・復旧は、市民に寄り添った迅速な対応であったと評価する。

「心豊かに暮らせるまちづくり」については、まちなか移住の誘導や農業農村活性化事業などの取り組みにより「移住・定住促進」を推進し、「安心のまちづくり」については、健康への意識啓発や健康増進として「スマートウェルネスシティ」の実現に向けた事業を展開され、「活力あるまちづくり」については、京都舞鶴港を核に「みなと振興・クルーズ客船誘致」で人流・物流の拡大を図られたことをそれぞれ評価する。また、30年度採用の「枠配分方式」の予算編成にも注目したい。

健康増進のウォーキング事業での表彰模様

市民病院の経営改善を評価

創政クラブ議員団
伊藤清美

全議案に賛成する。

平成29年度は子育て、教育、福祉、高齢者や障害者に配慮した事業や行財政改革に積極的に取り組み、本市が直面する諸課題に対応するさまざまな施策を精力的に推進し、実質収支額で8369万円の黒字決算となったことを高く評価する。

経常収支比率が97・9％、昨年度比で1・4ポイントの上昇となっているが、人口減少等により市税収入等、財源の増加見込みが難しい中、必要なサービスの維持に向けた関連施策を推進された結果と理解する。

医療療養型病院に移行して4年目となる市民病院は、持続可能な病院運営を目指して経営の健全化を図り、市からの補助金は一般会計から1億5900万円で、実質負担額は2900万円となっている。病床利用率の向上と職員の業務改善により経営収支が改善され、補助金が10億円を超えていたことと比較すると、1割まで減少させたことを高く評価する。

財政における収入と支出のバランス

10月3日の本会議での議案採決の結果は次のとおりです。
この採決は、「押しボタン式投票」で行ったものです。
この結果は、舞鶴市議会のホームページでも公表しております。

全会一致で可決した条例議案

- 舞鶴引き揚げの日条例制定
- 舞鶴市地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の一部を改正する条例制定

全会一致で可決・同意したその他の議案

- 工事請負契約について（東浄化センター汚泥処理施設（し尿）解体工事）
- 土地改良事業の施行
- 市道路線の認定及び廃止
- 公平委員会委員の選任

全会一致で可決した議員・委員会提出議案

- 舞鶴市議会基本条例
- 舞鶴市議会委員会条例の一部を改正する条例

【議決結果】可…可決、否…否決、同…同意、承…承認、認…認定、可認…認定及び可決、採…採択、不…不採択
【賛否】○…賛成、×…反対、欠…欠席、退…退席、除…除斥、棄…棄権

高橋秀策	谷川眞司	林三弘	山本治兵衛	今西克己	上野修身	岸田圭一郎	鯛慶一	福村暉史	眞下隆史	水嶋一明	和佐谷寛	上羽和幸	小谷繁雄	杉島久敏	松田弘幸	石束悦子	伊田悦子	小杉悦子	後野和史	亀井敏郎	田村優樹	松岡茂長	西村正之	議決をした日
創政	創政	創政	創政	新政	新政	新政	新政	新政	新政	新政	新政	公明	公明	公明	公明	共産	共産	共産	共産	鶴翔	鶴翔	鶴翔	無会派	
○	○	○	○	○	議長は採決に加わりません	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	10月3日

☆舞鶴市議会の議員定数は28人です。

議案の採決結果

（平成30年9月定例会） 会期：8月28日～10月3日

全会一致で可決・承認した予算議案

- 平成30年度一般会計補正予算（第４号）
- 平成30年度水道事業会計補正予算（第１号）
- 平成30年度下水道事業会計補正予算（第２号）
- 平成30年度国民健康保険事業会計補正予算（第３号）
- 平成30年度介護保険事業会計補正予算（第２号）
- 平成29年度簡易水道事業会計決算の認定
- 平成29年度貯木事業会計決算の認定
- 平成29年度駐車場事業会計決算の認定

賛否が分かれた議案

議案名 ＼ 議員名簿等（会派内は五十音順）		出席者数	投票者総数	賛成	反対	棄権	議決結果	伊藤清美 創政	尾関善之 創政	肝付隆治 創政	桐野正明 創政
市長提出議案	平成29年度一般会計決算の認定	28	27	23	4	0	認	○	○	○	○
	平成29年度水道事業会計の決算の認定及び利益の処分	28	27	23	4	0	可認	○	○	○	○
	平成29年度病院事業会計決算の認定	28	27	24	3	0	認	○	○	○	○
	平成29年度国民健康保険事業会計決算の認定	28	27	23	4	0	認	○	○	○	○
	平成29年度下水道事業会計決算の認定	28	27	23	4	0	認	○	○	○	○
	平成29年度介護保険事業会計決算の認定	28	27	23	4	0	認	○	○	○	○
	平成29年度後期高齢者医療事業会計決算の認定	28	27	23	4	0	認	○	○	○	○

【会派】
創政…創政クラブ議員団、新政…新政クラブ議員団、公明…公明党議員団、共産…日本共産党議員団、鶴翔…鶴翔会議員団、無会派…会派に所属しない議員

議会基本条例、特別委員会の活動報告 12月定例会予定、編集後記

議会基本条例を制定

9月定例会において、「舞鶴市議会基本条例」を制定しました。この条例は、市民の負託に応え、市民福祉の向上と市勢の発展に尽くすという決意が込められた、舞鶴市議会における最高規範性を有する条例です。

現第19期の舞鶴市議会では、議員の任期4年間における活動の指針として「議会活動基本計画」を策定し、「市民に開かれた議会」「議会機能の充実」「効率的・効果的な議会運営」を基本目標に活動してきました。

この条例は、これまでの取り組みを後戻りさせることなく、時代の変化に即応した活動の推進を市民の皆さんにお約束するものです。

今後、条例の内容を実現するための具体的な取り組みについて、議員の任期4年間を計画期間とする実行計画を策定し、活動を着実に進めてまいります。

これまで

議会活動基本計画

「市民に開かれた議会」「議会機能の充実」「効率的・効果的な議会運営」を基本目標にし、第19期の議会が取り組む計画を立て実践する。

活動を後戻りさせることなく、さらに推進するため

これから

舞鶴市議会基本条例

実行計画

議会・議員が担うべき役割を適確に果たすために、議員の任期4年間の具体的な計画を立てて、着実に取り組みを進める。

議会基本条例の趣旨と考え方については、市議会ホームページで見ることができます。

特別委員会の活動報告

原子力防災・安全等特別委員会

平成26年12月に、高浜発電所等に係る原子力防災・安全性の調査研究を行う「原子力防災・安全等調査特別委員会」を設置。27年11月に設置目的に「審査」を加え、名称を「原子力防災・安全等特別委員会」に変更。請願審査、参考人招致を含む委員会を23回開催したほか、調査視察などを行いました。

8月には、市民の皆さまの安心・安全の確保に向けて引き続き原子力防災・安全等に係る動向を注視し、調査・研究・審査等を行うことが必要であることを確認しました。

山陰新幹線京都府北部ルート誘致特別委員会

平成29年10月に、山陰新幹線の京都府北部を経由するルートの誘致促進に向けて調査を行うため設置され、平成30年2月の「山陰新幹線の早期実現を求める松江大会」に委員が参加し、山陰新幹線の意義などについて理解を深めました。8月には、担当部署から現状を聞き取り、議会としても引き続き注視する必要があるとの認識を確認しました。

編集後記

舞鶴市議会議員第19期の任期満了を目前とした、平成30年9月定例会も各議員の皆さんの熱意を感じました。

さて、現編集部会での「まいづる市議会だより」編集作業は、№160をもちまして最後となりました。市民の皆さまが、手に取って読みたくなるような紙面の構成を模索探求し、今年度も多くの議論を重ねた1年でしたが、議会の情報を提供するための課題はまだまだ尽きません。

今後も、市議会だよりが市民の皆さまと議会の懸け橋となるよう、ご意見やご感想なども反映してまいりたいと存じますので、お気付きの点等がございましたら、議会事務局までお寄せください。

結びに、毎回のご愛読に感謝を申し上げ、編集後記とさせていただきます。（田村 優樹 副部会長）

【議会報編集部会】

部会長	上羽	和幸
副部会長	田村	優樹
委員	肝付	隆治
委員	小谷	繁雄
委員	後野	和史
委員	眞下	隆史

12月定例会予定

12月

5日（火） 本会議（開会）
10日（月） 請願受理締切
13日（木） 本会議（一般質問）
14日（金） 本会議（一般質問）
17日（月） 予算決算委員会分科会・常任委員会
18日（火） 予算決算委員会分科会・常任委員会
21日（金） 予算決算委員会
27日（木） 本会議（閉会）

※予定は変更することがあります。

発行／舞鶴市議会　編集／議会報編集部会　〒625-8555 舞鶴市字北吸1044番地　TEL.0773-66-1060
ホームページアドレス http://www.city.maizuru.kyoto.jp/sigikai/　メールアドレス gikai@city.maizuru.lg.jp